

# 令和5年度 川崎市総合教育会議

## 新しい川崎市学習状況調査について

新しい市学習状況調査の結果を踏まえた  
今後の方向性について

令和5年11月28日（火）



# 1 市学習状況調査の拡充

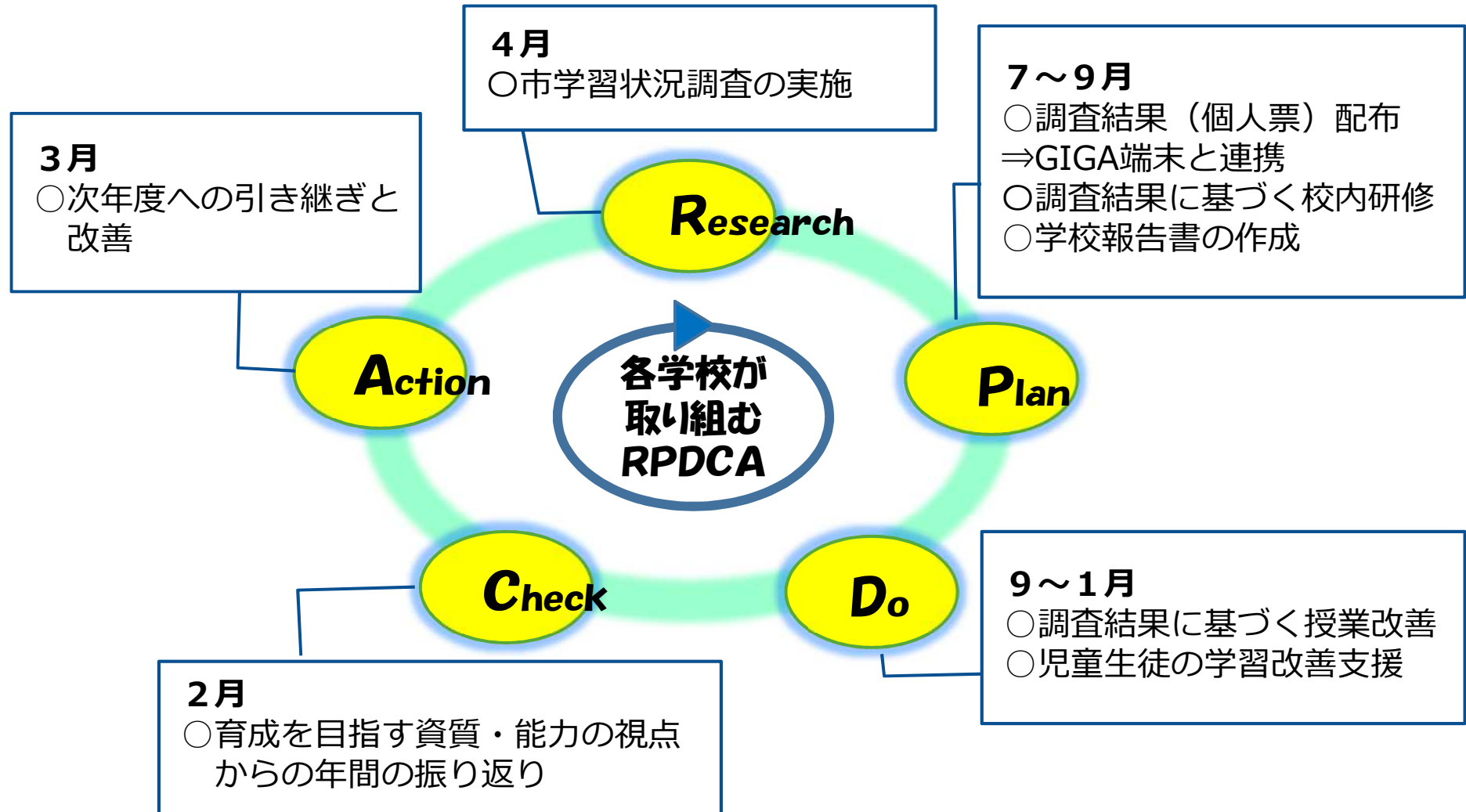
## 1 市学習状況調査の拡充

# 市学習状況調査の拡充の趣旨

- ✓ 変化の激しいこれからの社会において、各学校が授業改善や学習改善の支援に取り組み、個別最適な学びと協働的な学びをより充実させることが重要
- ✓ 学習状況に応じて授業改善や学習改善の支援の取組を進め、  
教育活動の質の向上 と 学習効果の最大化 を図り、  
児童生徒一人ひとりが、より『わかる』を実感できる授業づくりを推進する  
ために 市学習状況調査を拡充

# 1 市学習状況調査の拡充

## 市学習状況調査の年間スケジュール



## 1 市学習状況調査の拡充

# 市学習状況調査とは

### ✓ これまでの市学習状況調査

実施時期	年1回（小5：5月上旬頃・中2：11月上旬頃）	
実施学年	小学校5年生・中学校2年生	
調査教科等	【小5】 ○国語・算数 ○意識調査（アンケート）	【中2】 ○国語・社会・数学・理科・英語 ○意識調査（アンケート）
出題方法	教科の課題に応じて教育委員会で作成	
調査結果の活用	結果に応じて、定着を図る問題と補充する問題を紙で提供 等	

## 1 市学習状況調査の拡充

# 新しい市学習状況調査では何が変わったのか

### 1 実施学年の拡充

実施学年を**小学校4年生～中学校3年生の6学年に拡充**！

### 2 出題方法の変更

「**IRT（項目反応理論）を用いた学力調査**」となり、毎年同程度の難易度で新しい問題を作成するため、過年度比較や経年的な変化を把握することができる。

### 3 分析方法の変更

「**学力調査と学習に関する意識調査への4層分析**」や  
「**毎年実施することで、同一母集団における経年変化の分析**」が可能となり、より詳しい学力層別の傾向や状況が把握できるようになる。

### 4 GIGA端末との連携

個人の結果をもとに、**GIGA端末内の学習ソフトで自動生成された問題**に取り組めるようになる。

# 1 市学習状況調査の拡充

## 4 層分析とは

- ✓ 教科調査の4層分析は、川崎市の受検者を教科ごとに調査結果の高い者から並べ、上位から概ね25%ずつを、学力層としてA～D層（4層）に分割

(※意識調査の4層分析では、小は2教科、中は5教科の合計点でA～D層（4層）を分割)

- ✓ 学力層ごとに教科の平均正答率等を示して分析を行う。

【例】算数平均正答率及び4層分析（小学校）

	算数の平均正答率	学力層別の算数の平均正答率				A-D層の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	69.3	91.1	79.5	66.7	39.8	51.3
小5	64.6	89.6	75	59.6	34.2	55.4
小6	62.7	90.9	74.1	55.5	30.2	60.7

市全体の平均正答率

上位から25%ずつの平均正答率

# 1 市学習状況調査の拡充

## GIGA端末との連携とは

- ✓ 調査結果は、児童生徒一人ひとりに個人票として返却
- ✓ 個人票に記載された**二次元コード**をGIGA 端末で読み取り、**学習ソフトと連携**することで、**自分に合った問題に取り組むことができる。**

あなたの結果

20XX年度3学期

国語 数学 英語 社会 理科

教科別正答率 (%)

教科	総合	基礎	応用
国語	52.0	65.8	49.8
数学	38.7	55.1	44.4
英語	91.2	70.5	65.6
社会	80.6	50.1	33.5
理科	52.6	57.2	50.4

国語 100.0 76.4

数学 50.0 43.5

英語 100.0 88.1

社会 100.0 45.6

理科 0.0 29.2

個に応じた問題を生成

国語

ことわざ ×0

慣用句 ×0

故事成語 ×0

理科

対称な図形 ×9

社会

人権のくらし ×0

生成された問題

児童生徒に返却される個人票



## 1 市学習状況調査の拡充

# 学校・教育委員会・校長会における取組

### 教育委員会

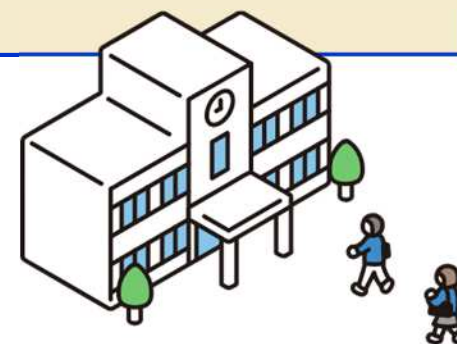
- ✓ **調査結果の分析に向けた学校向け研修**や**授業改善に向けた担当者会**を行う。
- ✓ 全市的な児童生徒の学習状況を経年調査し、学習状況の把握・分析や、教育施策の成果と課題を検証することで、改善を図る。

### 学校

- ✓ **調査結果を分析**し、**個に応じた指導や学校（学年）での授業改善等**を行う。

### 校長会・各研究（部）会

- ✓ 授業改善の具体的な手立て、個に応じた指導の手立て等を研究し、公開授業、研修会等で**教員に提案**



## 2 調査結果

## 2 調査結果

# 令和5年度の市学習状況調査の実施結果

### ✓ 調査実施日

令和5年4月11日（火）～14日（金）の4日間から各学校が設定

### ✓ 調査教科等

小学校	教科調査	国語・算数 ※1
	意識調査	アンケート（136～139問）※2
中学校	教科調査	国語・社会・数学・理科・英語 ※1
	意識調査	アンケート（152～157問）※2

※1：各教科20～30問程度 ※2：設問数は学年により異なる。

### ✓ 調査の状況

市立学校167校、児童生徒合計63,083人に実施

小学校			中学校			特別支援学校
114校			52校			1校
小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
11,688人	11,893人	11,805人	9,482人	9,217人	8,998人	63,083人

## 教科別の調査結果 (1/3)

### 小学校 (国語)

	国語の 平均 正答率	学力層別の国語の平均正答率				A-D層 の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	72.6	93.2	82.3	70.4	44.7	48.5
小5	70.9	92.2	80.2	66.8	44.5	47.9
小6	70.6	90.3	78.6	66.9	46.7	43.6

国語は、全体の平均正答率に着目すると、基礎的・基本的な内容は概ね身に付いているといえるが…

4層分析に着目すると、A層とD層の間には、40ポイント以上の差があり、大きな開きがある。

## 教科別の調査結果 (2/3)

### 小学校 (算数)

	算数の 平均 正答率	学力層別の算数の平均正答率				A-D層 の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	69.3	91.1	79.5	66.7	39.8	51.3
小5	64.6	89.6	75	59.6	34.2	55.4
小6	62.7	90.9	74.1	55.5	30.2	60.7

算数は、A層とD層の間に50ポイント以上の差があり、国語も含めてD層に注視する必要がある。

## 2 調査結果

# 教科別の調査結果 (3/3)

### 中学校 (国語)

	国語の 平均 正答率	学力層別の国語の平均正答率				A-D層 の差
		A 層	B 層	C 層	D 層	
中1	71.3	91.4	79.9	67.6	46.4	45
中2	74	91.7	82.1	71.4	50.8	40.9
中3	73.1	91	80.7	70.1	50.7	40.3

### 中学校 (社会)

	社会の 平均 正答率	学力層別の社会の平均正答率				A-D層 の差
		A 層	B 層	C 層	D 層	
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7	47.2
中2	48	73.7	54.1	39.9	24.5	49.2
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7	54.4

### 中学校 (数学)

	数学の 平均 正答率	学力層別の数学の平均正答率				A-D層 の差
		A 層	B 層	C 層	D 層	
中1	67.3	91.5	78	63	36.9	54.6
中2	50.4	78.3	59.8	42.8	20.9	57.4
中3	49.5	81.3	60	40.5	16.3	65

### 中学校 (理科)

	理科の 平均 正答率	学力層別の理科の平均正答率				A-D層 の差
		A 層	B 層	C 層	D 層	
中1	60.9	83.6	68.7	55.6	35.7	47.9
中2	51.7	76.9	59.2	44.1	26.6	50.3
中3	60.9	85.9	70.1	55.4	32	53.9

### 中学校 (英語)

	英語の 平均 正答率	学力層別の英語の平均正答率				A-D層 の差
		A 層	B 層	C 層	D 層	
中1	75.5	91.8	81.4	72.6	56	35.8
中2	64.6	93	76.2	55.6	33.6	59.4
中3	63.8	92.6	76.8	55.5	30.2	62.4

学年を追うごとに開く  
A-D層の差！

## 2 調査結果

# 意識調査の結果 抜粋 (1/2)

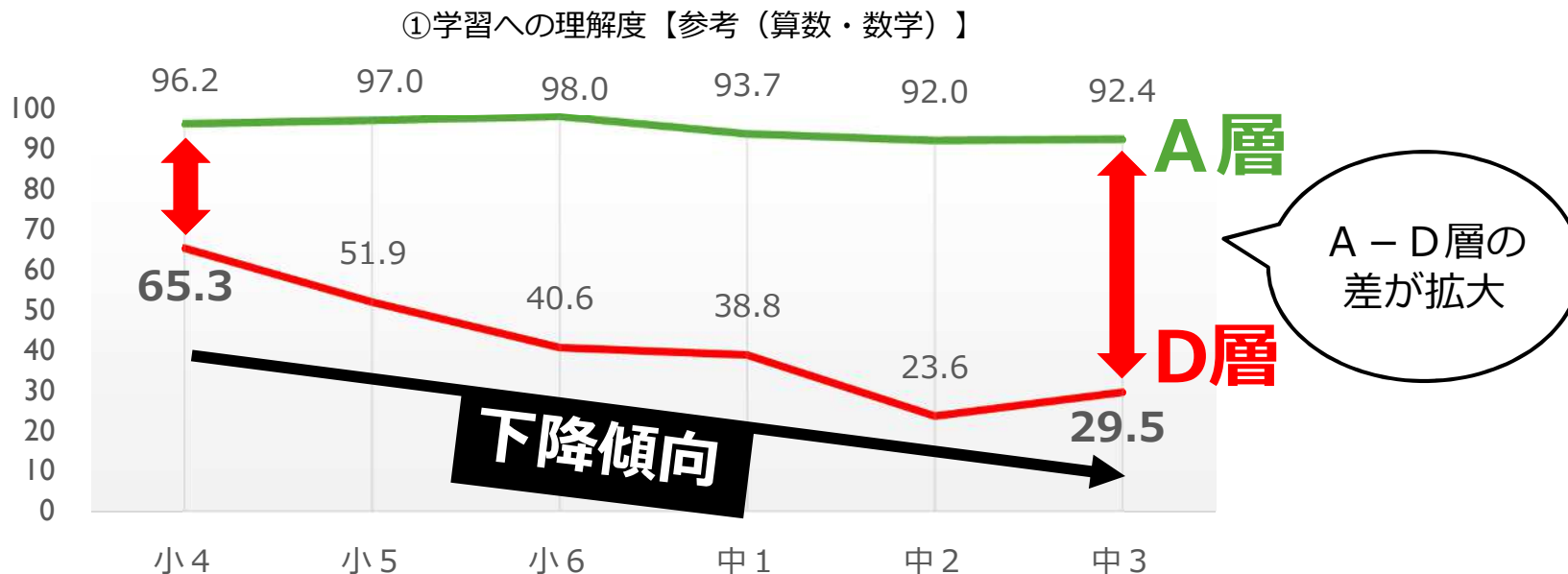
### ①学習への理解度

Q あなたは、次の教科の授業が、どれくらいわかっていますか。  
(国語、社会、算数・数学、理科、英語)



- ➡ **A層の約9割が肯定的な回答**をしている一方、  
**D層の肯定的な回答割合は、学年を追うごとに下降傾向**にある。

※肯定的な回答とは…各設問に対する「よく～している」「まあ～している」とする児童生徒の回答



## 意識調査の結果 抜粋 (2/2)

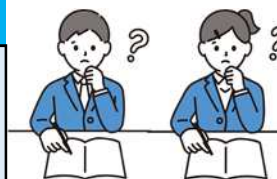
### ②学習に関する達成感

Q わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している

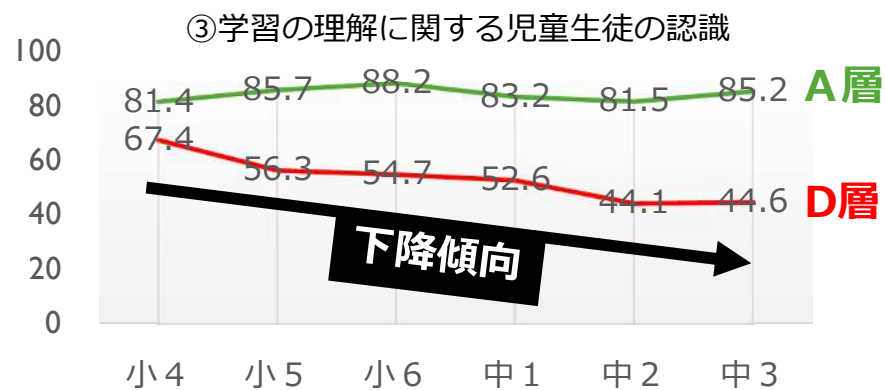
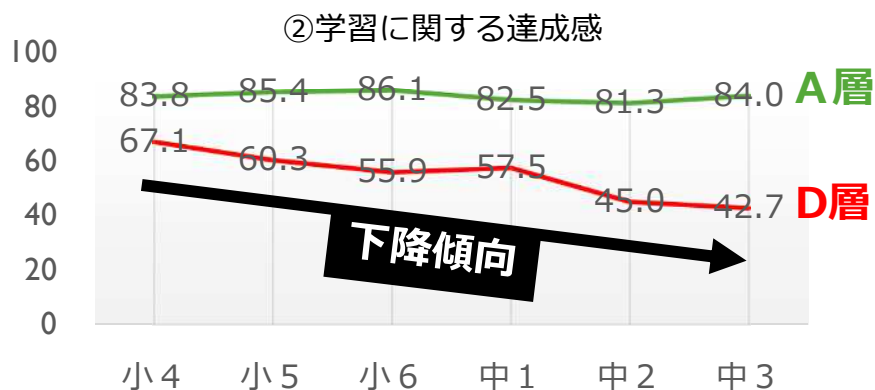


### ③学習の理解に関する児童生徒の認識

Q 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。



👉 **A層の肯定的な回答の割合**は、全ての学年で**8割を超えている**一方、**D層の肯定的な回答割合は、学年を追うごとに下降傾向**にある。





# 3 今後の取組の方向性

## 市学習状況調査の拡充の成果

### 成果

#### ➤ 児童生徒

- ・自身の学習状況を視覚的に経年で確認することが可能となり、今後の学習の見通しを持つとともに、振り返りが容易になった。
- ・GIGA端末内の学習ソフトと市学習状況調査を連動し、自身の課題に対して、いつでも主体的に学習することが可能になった。

#### ➤ 学校

- ・調査結果をもとに、学校全体で学校教育目標の実現に向けた取組を実施
- ・多数あるデータから、児童生徒、学級、学年、学校の、より詳しい学習状況を把握でき、データに基づく客観的な授業改善が可能になった。

#### ➤ 教育委員会

- ・調査の結果から、本市の特徴を詳しく把握することが可能になった。
- ・各学校の学習状況や重点項目が明らかとなり、学校支援のための客観的な資料を得た。

### 3 今後の取組の方向性

## 実施結果で見えてきたこと

### D層の児童生徒の傾向

- ✓ ほとんどの教科調査で正答率が40%を下回り、A層との差が、学年を追うごとに開く傾向にある。
- ✓ 教科調査の正答率が低く、意識調査では「わかる」を実感できていない。
- ✓ わからないことを諦めてしまい、理由や考え方に着目できていない。



- ☞ よりきめ細かな指導や、市学習状況調査の結果を「根拠」とした授業改善を、教科調査と意識調査の結果から判明したD層の児童生徒の特性を踏まえて行っていく必要がある。

### 3 今後の取組の方向性

## 今後の取組の方向性（1/2）

学習状況調査の結果を生かした授業改善の視点として

1 「何がわかっていて、何がわかっていないか」について、児童生徒が自覚できるようにする。

- ①既習を活用する（見通し）  
「わからない」「困った」を大切に
- ②理由や考え方に着目させる  
「どうして」「なぜ」を大切に
- ③振り返りの充実  
「そうか」「なるほど」を大切に

2 わからないことに対して諦めず、粘り強く取り組むために、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習をこれまで以上に大切にする。

- ①題材、課題に向き合う  
見る視点をもたせる。
- ②自分の考えをもつ  
解決するための手段や方法をもたせる。
- ③友達と解決する  
「わかった」という実感をもたせる。

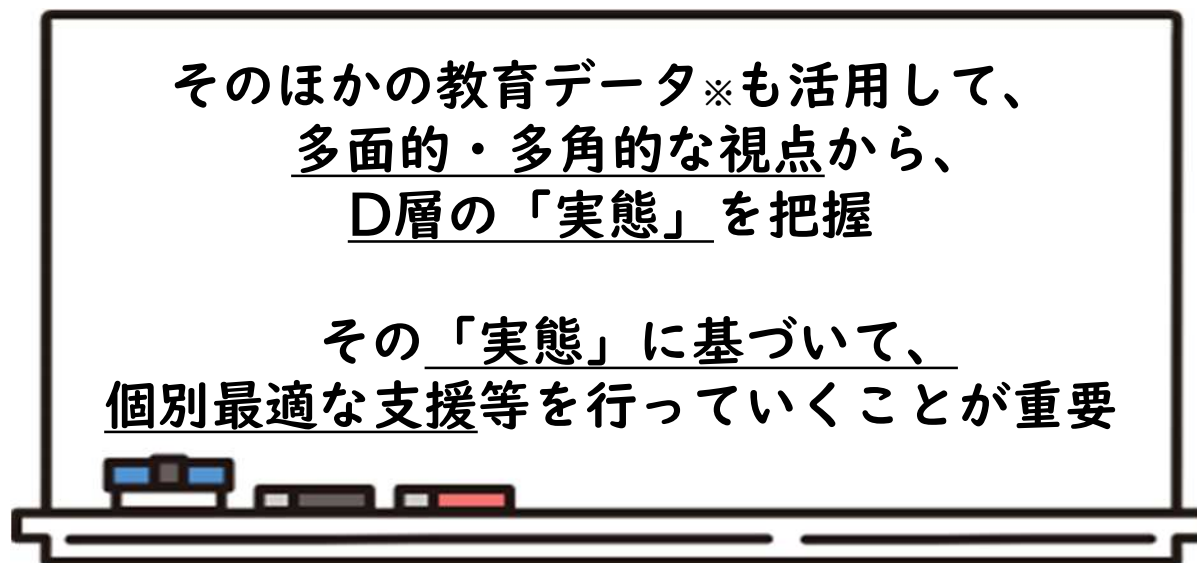
3 いつでもGIGA端末等を活用して、学習に取り組める環境を整備する。

- ①児童生徒の自発的な取組  
自分自身の課題把握と学習意欲の醸成
- ②保護者、家庭との共有  
家庭学習の改善、充実
- ③GIGA 端末の活用  
学校や家庭で学習ソフトなどの取組

### 3 今後の取組の方向性

## 今後の取組の方向性 (2/2)

- ✓ 市学習状況調査のデータに基づき把握したD層の児童生徒の状況は、学習面に限らず、学校・学級ごとの状況や、個人の資質・能力、家庭等の環境など、多様な背景や要因があると考えられる。



※「そのほかの教育データ」には、「学習に関わる記録」や「生活・成長に関わる記録」が含まれており、これらは、いわゆる「スタディ・ログ」や「ライフ・ログ」と呼ばれているもの